

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）	1
1. 体育学部	3
2. 体育学研究科	5

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

鹿屋体育大学

学部・研究科等の教育に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	教育活動の状況		教育成果の状況	
体育学部	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
体育学研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 体育学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 4)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

「スポーツ指導実習」という科目を必修科目とし、毎年度約 190 名の 3 年次生全員が実習先で実技指導及び事業運営に関する実践的な学修を行っている。この取組は、実習先関係者、体育系大学関係者及び地方自治体関係者を評価委員とした外部評価においても教育成果について高評価を得ている。

〔優れた点〕

- 3 年次に履修する「スポーツ指導実習」（学外実習）は、スポーツ・武道指導について学内で学んだ理論と実践をつなぐ重要な必修科目として位置付け、学外の機関等と連携し、指導現場における実地的・実践的な実習を通じて、体系的な実技指導力や事業運営力を深めることを目的として、毎年度約 190 名の 3 年次生全員が実習先で実践的な経験を積んでいる
- 教育の質保証の取り組みの一つとして、スポーツ指導実習を柱とした教育プログラムの教育効果を評価するため、本実習先関係者、体育系大学関係者、地方自治体関係者を評価委員として外部評価を実施し、教育成果について高評価を得た

〔特色ある点〕

- 平成 27 年度からタブレット型情報端末の必携化を行い、実技授業等において、動作をタブレット端末で撮影し、撮影した映像を見ながらグループワークを行う授業を実施している。また、授業の講義資料や授業映像を学内の学習支援システムに保存し、電子テキストとして活用するなど、いつでも学生が自己の学修の振り返りができるようにしている

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

2. 体育学研究科

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 6)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 6)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 社会に開かれた大学を目指し、社会人をはじめ地域住民等の学習機会を提供するため、公開講座等を開講しているほか、社会人入試による学生を受入れ、夜間授業の開設や長期履修制度の導入など、社会人が受講しやすい環境を整えている。また、関東圏あるいは熊本・鹿児島・宮崎を生活の拠点とする社会人が鹿屋体育大学の教育プログラムを受講できるよう、東京サテライトキャンパスにおける遠隔授業や体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム（鹿児島大学・熊本大学・宮崎大学との連携大学院プログラム）に取り組んでいる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。